

会報

第 315 号

岩手県小学校長会
代表 紺野好弘
事務局 TEL019(623)8955
盛岡市紺屋町2の9
盛岡市勤労福祉会館2F
印刷 富士屋印刷所



この一年を振り返って

会長 紺野好弘

新型コロナウイルス感染症の終息が見えない状況の中、令和四年度も残りわずかとなりました。各学校では、感染症対策を講じながら、子どもの学びを止めないようご尽力いただきました。この一年の子どもたちの成長の姿に手応えを感じていることと思います。

さて本年度の岩手県小学校長会の活動は、四月に開催した定期総会からスタートしました。岩手県教育委員会教育長佐藤博様、岩手県市町村教育委員会協議会副会長佐美淳様をお迎えし、会員が一堂に会して開催できたことは、この上ない喜びであります。

その中で私たちは、震災以来、会員の総意として大切に

してきた「明日を拓く 岩手の絆」を心に刻むとともに、

先が見えない状況であるからこそ、先達の教えや震災等を通して得た学びを継承し、会員相互の情報共有や連携のもと、自律的な学校経営の推進について確かめました。

七月七日・八日には盛岡市において、第六十二回東北連合小学校長会研究協議会岩手大会を開催いたしました。

コロナ禍ではありませんが、感染症対策を講じ、三年ぶりの参集型の東北大会となりました。大会を通して「東北は一つ」を標榜する東北連合小学校長会の連携を深めるとともに、震災からの復興をテーマとしたシンポジウムや分科会協議を通して、期待される

校長の役割や指導性について学びを深めることができたこと捉えております。

八・九月には、東日本大震災対策特別委員会事業として、田野畑小、釜石小、越喜来小を訪問させていただきました。震災による様々な辛さや苦しみを経験して育った子どもの中には、これまでとは異なるケアが必要な状況も見られ、このような被災地の現状を全連小の会議等で報告することにより、全連小として、復興に係る加配の継続や支援に関して国への申し入れを行っているところ です。

十月七日には、釜石市において第五十八回県小・中学校長研究大会釜石大会を開催いたしました。誌上開催であった花巻大会から四年ぶりの開催となりました。コロナの感染拡大に配慮し、開会行事と全体研究発表については六割の参加としました。全体研究発表では、吉田久美子研修部長がポストコロナを見据えた「資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメント」の実施状況について発表し、参加した会員は興味深く聞き入っております。午後の分

科会は全員が参集しテーマに関わる校長の在り方等について協議を深めることができました。

また、学校が抱える諸課題や取組に関して、行財政部、研修部、生徒指導部それぞれの視点から調査を実施いたしました。お忙しいところ、調査にご協力いただき大変ありがとうございました。これらの調査結果や喫緊の課題である教員不足問題、給特法の改正を含めた教職員の処遇改善等に関して、七月と十一月の二回、県教育委員会を訪問し、直接県教育長及び関係課長に要望することができました。

これからの社会を創っていくのは、今の子どもたちであるの言うまでもありません。しかし、子どもたちの教育に携わる教員が安心して教育に打ち込める環境であること、質の高い人材を確保すること、体制を早急に整備することは、これからの日本の教育を考えるうえで欠かすことのできない重要な要件であります。

校長会として本県教育の充実に向上を期し、さらなる努力を続けていく必要があると考えております。



各大会集録



釜石大会開会行事



被災地訪問（釜石小）

令和四年度 各部の活動報告

総務部

総務部は、本会全般に関わる企画・立案及び庶務に関する活動、東日本大震災対策活動等を行った。

一 総務部担当活動

① 理事会・評議員会

○ 第一回理事会・評議員会

(四月二十二日)

本年度の組織構成等の確認

○ 第二回理事会 (六月十三日)

・ 第六十回総会の反省

・ 第五十八回岩手県小・中学校長研究大会釜石大会について

○ 第三回理事会 (九月十六日)

・ 全連小関係報告、被災地訪問報告

・ 第五十八回岩手県小・中学校長研究大会釜石大会について

○ 第四回理事会・第二回評議員会 (十一月十四日)

・ 全連小・東北連小対策・教育課程調査委員会報告

・ 令和四年度岩手県教育委員会への要望事項について

・ 第五十八回岩手県小・中学校長研究大会釜石大会反省について

○ 第五回理事会・第三回評議員会 (二月二十二日)

・ 全連小理事會、東北連小理事

・ 令和四年度岩手県小学校長会収入・支出決算(中間)報告

・ 令和五年度行事予定

○ 総務部担当理事・地区事務局長合同会議

○ 第一回総務部担当理事・地区事務局長合同会議

(四月二十二日)

・ 本年度の組織構成

○ 第二回総務部担当理事・地区事務局長合同会議

(二月二十七日)

・ 令和五年度行事予定

・ 令和五年度総会開催関係依頼事項の伝達

○ 常任理事会

今年度の活動方針と計画に基づき、年間十二回開催し、各部の活動状況を共有し懸案事項を協議した。

二 東日本大震災対策特別委員会

会報告

令和四年度岩手県小学校長会収入・支出決算(中間)報告

令和五年度行事予定

総務部担当理事・地区事務局長合同会議

第一回総務部担当理事・地区事務局長合同会議

(四月二十二日)

本年度の組織構成

第二回総務部担当理事・地区事務局長合同会議

(二月二十七日)

令和五年度行事予定

令和五年度総会開催関係依頼事項の伝達

常任理事会

今年度の活動方針と計画に基づき、年間十二回開催し、各部の活動状況を共有し懸案事項を協議した。

東日本大震災対策特別委員会の開催

第一回 (六月十三日)

令和四年度東日本大震災対策特別委員会の計画

第二回 (十一月十四日)

前盛岡市立山岸小学校長 眞壁信義先生による復興・防災に関わる講演会

第三回 (二月二十二日)

令和五年度被災地訪問等

三 東北地区連合小学校長会活動

第六十二回東北連小岩手大会の開催 (七月七日、八日)

大会初日は、盛岡市民文化ホールを全体会場にシンポジウム等開催。

大会二日目は、分科会会場を三つのホテルに設営し、十分科会での研究協議を実施。

東北連小理事会等の開催

第一回 (五月二十日)、第二回 (七月六日)、第三回 (二月三日) を盛岡市にて開催。

(総務部長 佐藤 淳)

行財政部

教育諸条件に関する実態把握と要望事項について会員の意見を集約し、その調査結果をもとに、県中学校長会と共同で県教育委員会に要望活動を行った。

一 行財政関係調査

① 県調査

「校長の給料等の実態」「教職員の病休者と補充状況」「人事、給料、研修等要望事項に関すること」「教材予算に関すること」「その他」について実施。

② 全連小調査

「教職員定数改善」「教育環境整備」「教員養成」「働き方改革・処遇改善」等についての調査へ回答。

二 要望(提言)活動

① 要望書の提出

前年度の要望項目について次年度予算への具現化を図る目的から、県教育委員会への要望訪問を実施。(七月二十七日)

また、会員からの調査結果をもとに「本県義務教育の充実振興について」をまとめ、県教育委員会へ提出。(十一月十五日)

② 教育懇談会

県教育委員会と県中学校長会合同で、「本県義務教育の動向」「人事・服務上の諸課題」「生徒指導上の諸課題」等にかかる県教育委員会の説明をもとにした意見交換及び県教育長の講評。(八月二十五日)

三 全連小対策委員会

「働き方改革の進捗状況と課題」「GIGAスクール構想の実現に向けたICT環境整備の進捗状況と課題」をテーマに東京都において開催。

(九月二十九日)

四 東北連小対策委員会

「対策活動や要望活動の取組状況」「震災復興及び防災に係る人的配置、施設・設備等の整備状況」「働き方改革への取組状況」「退職者が急増する状況を踏まえた対応」についての情報交換及び協議。

(十月二十一日)

五 活動報告書

令和四年度行財政対策委員会活動報告書を作成。

六 諸会議の開催

行財政対策委員会(五回)、

行財政担当理事・地区行財政担当委員・行財政対策委員会合同会議(二回)を開催。(行財政部長 和田 英)

研修部

研修部は、学校経営の充実に寄与するため、教育課程、並びに各研究大会等に関する次のような活動を行ってきた。

一 会議の開催

・ 地区研修担当者会議二回

・ 調査研究特別委員会二回

・ 調査研究委員会 十回

二 調査研究活動

① 岩手県小学校長会関係

ポストコロナを見据えた「資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメント」の実施状況について調査研究活動を行った。「新型コロナウイルス感染症対応の実態」「資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメントの実態」の二項目について昨年度実施した調査結果に分析・考察を加え、県小・中学校長研究大会釜石大会で発表した。

② 全国連合小学校長会関係

全連小の計画により、抽出校に依頼し、調査を実施した。

三 研究大会

① 第五十八回岩手県小・中学校長研究大会釜石大会(十月七日)を釜石市で開催した。午前

の全体会では調査研究報告を、

午後の分科会では、各地区校長会の研究発表をもとに研修を深めた。

②第六十二回東北連合小学校長会研究協議会岩手大会(七月七日・八日)に東北六県から千十余名が参加した。シンポジウムは「震災からの復興く子どもたちに夢と希望を」をテーマとし、分科会では、全分科会の視点二を県内各地区が受け持ち発表した。盛岡市校長会をはじめ、各地区校長会の御支援、御協力により、六年に一度の本大会を成功裏に終わらせることができた。

③第七十四回全国連合小学校長会研究協議会鳥根大会(十月十四日)に、岩手県から九名参加した。コロナ禍のため、島根県と東京都に分散して行われた。(研修部長 吉田 久美子)

広報・編集部

教育情報の提供並びに会報・会誌の編集、発行に関する活動を行ってきた。

一 「会報」の発行

- ①第三百十三号
- ・岩手県小学校長会総会
- ・地区校長会交流(釜石)
- ・教育課題への対応(久慈)
- ・役員等紹介 他
- ②第三百十四号
- ・東北連小岩手大会
- ・地区校長会交流(二戸)

・教育課題への対応(胆江) 他

③第三百十五号

・岩手県小・中学校長研究大会
・全連小島根大会報告
・各部活動報告
・地区交流(一関) 他

二 「北奥」第五十九号の発行

各地区から四十三名の会員に、「随筆・創作、教育実践、小論・提言、特集論文、復興の足跡」の執筆と、表紙絵の協力を得て発行した。

三 「小学校時報」への執筆

- ①四月号
深野淳校長(矢巾東小)
- ②九月号
紺野好弘校長(桜城小)
後藤敏信校長(山王小)
村田浩隆校長(滝沢中央小)
中村幸子校長(杜陵小)
- ③十二月号
後藤良子校長(松園小)
- ④二月号
藤田浩人校長(黒沢尻東小)

四 全連小HPへの推薦

①学校紹介コーナー(山目小)

五 諸会議の開催

広報・編集専門委員会を五回、担当理事・地区広報担当者・専門委員の合同会議を二回開催した。
(広報・編集部長 中村 幸子)

生徒指導部

生徒指導の諸問題に係る調査

の実施及び児童の健全育成の推進を図るために、各地区小学校長会や県中学校長会と連携し、次の活動を行った。

一 会議の開催

①生徒指導担当理事・専門委員・地区生徒指導担当者合同会議(二回)

・第一回 年間活動計画の作成
・第二回 調査結果の考察等
②小・中生徒指導情報交換会
・調査結果の中間発表等
・講話「本県における生徒指導上の諸問題」

③生徒指導専門委員会(五回)

・調査内容の決定
・調査結果の分析と考察
・調査結果のまとめ
・活動の反省と次年度方針協議

二 調査研究活動

①研究主題
「生徒指導の諸問題にかかる調査研究」

②調査方法
・県内全小学校長を対象にアンケート調査を実施

③調査内容
「いじめ」「不登校」「少年非行」「学級経営上の諸問題」「情報化」「児童虐待」「震災の影響」「新型コロナの影響」

④調査のまとめ
・調査研究内容を報告書にまとめ、年度末に配付。
(生徒指導部長 藤原 安生)

第五十八回岩手県小・中学校長研究大会 釜石大会 分科会 報告

第一分科会(経営組織運営)

目指す学校づくりと組織・運営の活性化

一関市立東山小学校
伊東 洋司

一関地区からは「学校経営ビジョンの実現に向けた学校経営」について、三年間の研究実践が発表された。アンケート調査により明らかになった学校経営ビジョン実現のために重視しているにも関わらず成果があがっていない項目について、課題解決のための実践が紹介された。協議の中では、発表者から出された「コロナで中止・縮小していた行事を今後どのように実施していきますか?」という問いかけを中心に話し合わせ、各校、各地区の今年度の状況と次年度の見通しについて交流した。

介された。協議の中では、教職員の参画意識を高め活力のある組織づくりのための手立てについて交流した。学校によって職員数や年齢構成に違いがあるものの、適材適所の職員組織、主任層への適切な働きかけ、OJT、職員間の対話の活性化等の重要性が確認できた。

第二分科会(評価・改善)

教育活動の活性化を図る学校評価と学校運営の改善
岩手町立一方井小学校
佐々木 悟

岩手地区から、「学校経営の活性化」に関わって、まなびフェストの具現化に向けた取組の発表があった。まなびフェストを意味あるものにする方策として、教職員で共通理解を図ると共に保護者の意見を取り入れる取組が示された。参会者からも、保護者と共に評価項目を見直す事例が紹介された。これらの実践交流を通して、学校評価の在り

方を見直し検討することが、学校経営の活性化につながる事が確かめられた。また、地域や家庭とのつながりを意識した教育活動の展開が、学校への期待や関心を高め、評価への理解を高めると確認できた。

胆江地区から、「教職員評価及び資質向上のための方策」について、教職員を育成する取組の発表があった。コーチング、教職員面談、支援者・自己目標の設定、評価のための基本ツールの活用、ポジティブな行動支援等、豊富な実践例が紹介された。それらの実施にあたって、職員個々の特性・能力・経験をよく把握すること、傾聴・共感・アイメツセージを大切に接すること等が、教職員の意欲を引き出し、主体的な職員集団形成に繋がると学び合った。そして、校長自らが、経営方針をしっかりと、教職員を導くことが重要だと確認された。

第三分科会(知性・創造性)

盛岡市立見前小学校

鈴木敏彦

初めに、盛岡地区後藤良子校長から「『主体的・対話的

で深い学び』を追求する職員集団の育成」についての発表があった。その中で、「主体的・対話的で深い学び」に関する共通理解、そしてそれを追求しようとする職員の意識向上に向けた校長の働きかけについて、実践事例が紹介された。事例の中でも注目されたのは、授業づくりも含めた学校づくりについてのワークショップ「松小の夢を語る会」、校内で講師を選定し専門的な知識や技能等を学び合う校内研修会「上田塾」であった。これら有効な取組に共通することとして、全職員を巻き込むこと、子どもの姿や授業における発問等の具体を取り上げること、そしてボトムアップの形態をとるということを参会者で確認した。

次に、一関地区佐藤加奈子校長からの発表「知性と創造性を育む教育課程と校長の在り方」の発表があった。その中で、自己評価シート及びプランニングシートの活用による学校課題の改善に向けた実践事例が紹介された。改訂版の「プランニング&チェックシート」によって、推進日程や役割分担、進捗状況が共有されるとともに、経営の重点が明確化し、同僚性の構築と学校課題の改善に資することが確認された。

本分科会は、司会者の裁量

によりグループ協議が取り入れられ、協議とともに情報交換が図られ、大変充実した会となった。

第四分科会(豊かな人間性)

北上市立口内小学校

吉田由美

和賀地区から「人権感覚育成のための『隠れたカリキュラム』の構築」校長の直接的発信のもたらす意義とその効果」の実践が報告された。「隠れたカリキュラム」を学校の在り方、教職員、児童が一体となつて学校が作り出す雰囲気と捉え、全校朝会の講話、職員会議の資料に絞って研究し、事例から価値内容・メッセージ性・伝達手段の共通点が見出され、モデル化して提示していた。特に全校朝会の講話について、校長の発信だけでなくその意を汲み取った教員のフォローがあるとより効果的である等協議が深められた。改めて校長の直接的発信の重要性が確認できた。

宮古地区から「自己肯定感を高め、豊かな心を育成する教育課程の創造と校長が果たす役割と指導性の検討」の実践が報告された。アンケート調査、分析により地域共通の傾向と学校ごとの違いを明確

にした上で実践を重ね、各校の教育課程の具体例を数多く示していた。また、児童生徒の心理発達の特長から講義を受け、実効性のある実践及び専門的な視点に基づいた交流を行っていた。自己肯定感

は家庭や地域の中で育つ面もあることから校報で啓発を図るなどの事例も紹介された。参加者からも自校の実践を紹介するなど交流が深められた。改めてこれまで積み重ねてきた教育実践そのものが大切だということを再確認できた。

第五分科会(健やかな体)

矢巾町立不動小学校

鷹 嵩 達

紫波地区からは「児童の心身の健やかな成長を目指す学校経営の在り方」について紫波町内の各校の取組とともに説明があった。中でも児童の健康教育推進のためのカリキュラム・マネジメントにおいては、ルーブリックで評価基準を明示していること、また、目標達成のためのロードマップが示されていることに

対して、多くの参会者から賛同が寄せられた。また、運動に対する関心・意欲の二極化に伴い、小学校段階で児童に

運動の楽しさを実感させることが大切であるという意見も出され、遊びを取り入れた業間運動の実践も参加者から紹介された。

久慈地区からは「地域社会の特性を生かした環境教育の推進と校長の在り方」についての発表があった。各学校の実践における校長の役割を見直し、「しめす」「つなぐ」「まとめる」の三つの視点を設定することにより各校での取組を共通性をもって整理することができたという成果が紹介された。また、様々な体験活動を教育課程と関連させるためにリレーションシートを作成したことによって、学校教育目標と活動の目的・内容に一貫性をもたせるとともに校長の関わりが明確になったという成果も報告された。

第六分科会(研究・研修)

二戸市立金田一小学校

菅原佳子

二戸地区から「学校の教育力を高める研究・研修の推進」若手の育成とベテランの活性化を促進する校長の役割」の

発表があった。若手とベテラン教員が多い地区内の実態から意図的にマッチングを考えたいと考えた実践であった。学年単一学級規模校も小規模校であっても意図的に二人に焦点をあてコンビにするという考え方、その二人への校長の支援、そのコンビを鍵とした学校経営への波及等について協議された。

盛岡地区から「参画意識をもち学校の教育力を高める職員の育成」の発表があった。丁寧なアンケート調査から「やりがい」「研修」「参画意識醸成のための必要なこと」等分析考察した結果六つの校長の役割と指導性が明確になったという実践であった。情報を整理・可視化するためのグラウンドデザイン、自主研修を組んだこと、意見を聞くことを大切に全職員でまなびフェストを作成し学校経営に位置付けたこと等について協議された。

第七分科会(学校安全)
安全・安心な学ぶ環境づくり

釜石市立平田小学校

鈴木 崇

釜石地区では「自ら判断し行動できる子どもを育てる安

全教育・防災教育の推進と校長の在り方」について、教職員の共通理解と研修の充実、地域・関係機関との連携を視

点に取り組んだ実践を報告した。校長として求められる役割は、①安全教育計画及び危機管理マニュアルの見直し、②安全教育における重点事項の見直し、③職員の危機管理に対する意識の向上、④PTAや関係機関、地域ボランティア等との連携を示した。協議では、連携した組織・団体や活動内容の具体について、危機管理マニュアルの活用や職員との共有の方策について活発な意見交換となった。

気仙地区からは「家庭・地域・関係機関との連携・協働による意図的・計画的な取組の推進」について、地域・家庭・関係機関との連携・協働、教職員の育成の視点で取り組んだ実践が報告された。安全・安心な学ぶ環境づくりのための校長の役割として、①地域連携における役割、②教職員の育成における役割についての具体が示された。

協議では、教職員の危機意識の向上や研修体制、地域連携の具体についての意見交換がなされた。

この分科会を通して、校長のリーダーシップの重要性を改めて感じるとともに、各地区

の実践・意見の交換により貴重な学びの機会となった。

第八分科会(危機対応)
防災教育や自然災害への対応

岩泉町立釜津田小学校

大澤 滋

視点一について、宮古地区校長会から「自らの命を守る防災教育の在り方」自然災害の特性を理解し、自ら判断し行動できる防災教育の推進を通しての「実践発表があった。『最善導く学び』『継続する学び』『支え合う学び』『伝承する学び』の四観点から防災学習の見直しを図った多くの実践例や自然災害への対応において校長が果たすべき役割について紹介された。防災を学ぶ人材を含めた地域理解が大切であることや教職員の意識を高める手立てについて協議され、不断の見直しが不可欠であることを確認した。

視点二について、岩手地区校長会から「事故を未然に防ぐための危機管理と学校体制づくりについて」新型コロナウイルス感染症対策の取組を通しての「実践発表があった。行事での保健管理や拡大防止、校内の環境整備、保護者対応等について、校長間の連携を図り市教委に働きかけながら一体となって対応に当たった事例が発表された。感

染状況の変化に合わせた対応や、要望に応じて市教委からご支援いただいていることより、校長間の連携による実効性を感じ、協議でも各地区の連携の様子が話題となった。二つの発表の実践を、危機に備える手段に取り入れたいと思うとともに、いざというときの最善な判断のためには、日ごろの連携を強めることが重要であることを再認識した。

第九分科会(自立と社会性)
自立と社会参加を図る教育の推進

久慈市立小久慈小学校

佐藤 拓史

久慈地区校長会より「特別支援教育の充実・推進に向けた学校経営の在り方」について発表された。

特別支援教育実態調査結果とグループ内五校の情報交流から課題を明らかにした。その中から、教職員の育成として、特別支援教育コーディネーターに中堅教諭を指名し、校内体制の充実を図ったこと。特別支援学級(肢体不自由)新設に際し、特別支援教育の経験やスキルを有する教員等配置の要請と併せて、市教委を通じ県教委から指導・助言を受け、入学に備えたことなどが紹介された。子どもたちの学びが充実し、安

心して学校生活を送ることができるよう環境を整えていくことが、校長の大きな役割であることを再確認した。二戸地区校長会より「地域と協働する学校経営の在り方」について発表された。コミュニティ・スクールの設立にあたり、軽米町内三校を工夫し、実践することを通して子どもたちの職業観が育成されるよう、地域とともに協働する学校経営に取り組んでいる。その中から一校の実践が紹介された。地域の思いがどの程度子どもたちや活動に反映できたのか、子どもたちが記載したキャリアパスポートを学校運営協議会の場で共有し、次年度の取組の改善・見直しに生かそうとする実践例は、コミュニティ・スクールの活性化と併せてキャリア教育をも充実させてくことができる点で、多くの学校に参考となる内容であった。

第十分科会(社会との連携・協働)
家庭・地域・異校種等との連携・接続の推進

奥州市立黒石小学校

小澤 則幸

視点一については、自分の所属している胆江地区校長会第三研究班からの発表であった。県内では、学校運営協議

会制度によるコミュニケーション・スクールの実施校が増えており、分科会参加校においてもほとんどの学校が実施している状況であった。そうした中、我が班で取り組んだアンケートの研究実践について、協議の中で「熟議のもとが無くて苦労していたので参考になった。」「視点を絞った話合いができる。」等の声があった。各参加校における地域連携に少しでも資する取組ができたとすれば嬉しい限りである。

視点二については、遠野地区校長会から研究発表があった。四つの観点で研究実践を行ったとのこと。つまり、①学力向上、②小・中接続、③小・小連携④「ふるさと教育」(遠野市独自の取組)である。(①は共通、②③④は各中学校区別)「いつ、どこで、誰が、何を」を明確にした年間計画を作成し、校長同士が密に連携し実践していたことが参考となった。また、個人的にはキャリア教育における評価のタイミング及び実施方法について課題を感じていたが、遠野市では発達段階に応じた共通の様式で市内全小中学校が年度末にキャリアパスポートとしてまとめて実施しているとのこと、評価の視点と場が確保されている点が参考になった。

全連小島根大会報告

第七十四回全国連合小学校長会研究協議会島根大会が、令和四年十月十四日、島根県松江市と東京都それぞれに十三の分科会会場を設け、発表者や関係会員約二百六十五名が参集し、両会場をオンラインで結ぶハイブリッド形式で開催された。開会式・文部科学省講話・全体会・閉会式のライブ配信、研究発表・シンポジストによる鼎談のオンデマンド配信等、参集できなかった会員も参加できる手立りが取られた。新型コロナウイルス感染症の影響で二年連続紙面開催となった全国大会であったが、「校長の学びを止めない」という全連小会員の強い思いの下、一部参集も含む形で大会が開催されたことは、意義深いことであると感じた。

岩手県からは、紺野会長以下八名が参加。東京会場として設けられた第四分科会、第十一分科会に分かれて参加した。午前中は、開会式の後、文部科学省大臣官房審議官安彦広齊氏より講話をいただいた。令和日本型教育の在り方、個別最適な学びの実現、免許更新制廃止に伴う教員研修の在り方、特別支援教育の充実等、現在の教育課題について、具体的な資料を基に、

ご説明いただいた。午後の分科会では、本県から二名の会員が研究発表を行った。第四分科会では、盛岡市立松園小学校後藤良子校長が、「主体的・対話的で深い学びを追究する職員集団の育成」職員の意識を向上させるための校長の働きかけの工夫」というテーマで発表。「松小の夢を語る会」や校長の校内研への関わり方等、校長の思いや考え方を伝えながら、職員の意識を同じレベルにもっていくという実践に称賛の声を多くいただいた。

第十一分科会では、矢巾町立煙山小学校阿部真由子校長が、「他者と協力・協働しながら自ら社会を形成する子ども」の育成「カリキュラム・マネジメントによる教育活動の推進」と校長の役割」というテーマで発表。身に付けさせたい資質・能力を明確にし、学校運営協議会を生かして、地域と連携した教育活動を推進した学校経営の確かさに高い評価をいただいた。

令和五年度の東京大会は、全連小七十五周年式典を含む記念大会となる。現在参集によるフルスペックでの開催を目指し準備が進められている。(行財政部長 和田 英)

令和5年度大会等のお知らせ

令和5年度 第61回岩手県小学校長会定期総会

- 1 期 日 令和5年4月21日(金)午後
- 2 場 所 盛岡市都南文化会館(キャラホール)
- 3 主な内容 感謝状贈呈 行政説明 被災地状況報告 総会 第1回理事会・評議員会合同会議 各部毎地区理事・担当者・専門委員合同会議

第63回 東北連合小学校長会研究協議会山形大会

- 1 期 日 令和5年7月6日(木)、7日(金)
- 2 場 所 山形市やまぎん県民ホール 他
- 3 主 題 「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」
- 4 副 主 題 「人間力に満ちあふれ 社会や地域の持続的発展に貢献できる子どもを育てる学校経営の推進」

第75回全国連合小学校長会研究協議会東京大会 全国連合小学校長会75周年記念式典

- 1 期 日 令和5年10月19日(木)、20日(金)
- 2 場 所 東京国際フォーラム 他
- 3 主 題 「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」
- 4 副 主 題 「多様な人々と協働しながら新しい価値を生み出し、持続可能な社会と幸福な人生の創り手となる力を育む学校経営の推進」

地区校長会研究交流

未来を拓き「主体的に生きる力」を育む
教育を推進する組織を目指して

一 一関地区校長会

一 はじめに

一関地区では、令和元年度より、一関地方小学校長会、一関地方中学校長会、一関市校長会、平泉町校長会の四つの組織が一つとなり、一関地方校長会とし、一枚岩で取り組んでいます。今年度の一関地区では、一関市内に小学校が二十七校、中学校が十六校、平泉町内に小学校が二校、中学校が二校、あわせて四十六校となります。

一関地方校長会では、小学校と中学校の連携を密にしなから、岩手県小・中学校長会の研究の趣旨及び研究の視点を基に、未来を拓く児童の育成のために、「主体的に生きる力」を育む研究の推進にあつていきます。

毎年、一月に開催する「一関地方小・中学校長研究発表

大会」では、小学校三部会、

中学校一部会の研究について発表し、交流を図っています。

また、コロナ禍の対応を含め、喫緊の課題について各校の情報交流や校長間の意見交流を密に行い、より一層連携を深めています。

二 研修計画の概要

今年度の一関地方校長会小学校部会の研修は、次のような方針で進めてきました。

・教育専門職としての資質を高めるとともに、学校経営者としての資質・能力を一層練磨する。

・岩手県小学校長会の研究の趣旨及び研究の視点を基に新しい教育の創造に確かな識見と展望をもって、研究を推進する。

・研究にあつては、六つの研修部会構成で行う。

・研究の成果は研究報告書にまとめ、次年度以降の研究に資するとともに、本会主催の研究発表会において発表し、研究成果を共有する。

・会員は、定例研修会、班別研修会、各種研究大会への参加を通して、研究の充実を図る。

三 研究班の構成と概要

今年度、一関地方校長会小学校部会は、六班編成で研究の推進にあたっています。今後学校統廃合が進み、新たに班編成を行っていくことになりま。班別に研修の機会を設けることは、一つの目的に向かい各校の創意工夫から学ぶ貴重な機会となつていきます。それぞれ研究班では、年に六回ほど集まって実践的な研究を進めています。

各班の研究主題は次のようになつていきます。

第一部会（社会との連携・協働）

○学校と地域の連携・協働の推進と校長の在り方
↳学校運営支援協議会の立

ち上げ・運営を通して

第二部会（知性・創造性）

○知性と創造性を育む教育課程と校長の在り方
↳職員が主体的に関わる P D C A サイクルの実践を通して

「東北連小岩手大会・岩手県小・中学校長研究大会釜石大会発表」

第三部会（豊かな人間性）

○統合小学校にむけた豊かな心を育む教育課程と校長の在り方
↳自他を認め合い、自己・他者肯定感を高める小・小連携の推進を通して

「第四部会（評価・改善）」

○経営改善につなげる学校評価
↳学校課題の共有と改善の具現化に向けた組織マネジメント

「第五部会（経営、組織・運営）」

○学校経営のビジョンの実現に向けた学校経営
↳組織の具体的運営の在り方

「岩手県小・中学校長研究大会釜石大会発表」

第六部会（健やかな体）

○自ら運動に関わって

とする子どもを育てる教育活動の推進と校長の役割
↳家庭・地域との連携も視野に入れながら

四 終わりに

今年度は、東北連小岩手大会並びに岩手県小・中学校長研究大会釜石大会において、「学校経営領域」と「教育課程領域」で、二つの部会が研究の成果を発表させていただきました。たくさんの皆さんからご意見、ご助言をいただきましたこと感謝いたします。

先行き不透明な社会情勢の中、頭を寄せ合つて主題研究に取り組み、その成果を全体で共有することで校長会としての一体感を強く感じることができました。全会員が実践的に考え、お互いのアイデアを共有することが、それぞれの学校経営を支えていると思います。このことが、未来を切り拓く児童生徒の育成へとつながり、教職員にとつてもやりがいを感じる職場になつていくものと思います。

（一関市立千厩小学校
長山 政志）

事務局日誌抄

- 10月 6日 第58回岩手県小中学校長研究大会釜石大会打合せ会（釜石市民文化ホール）
 7日 第58回岩手県小中学校長研究大会釜石大会（釜石市民文化ホール）
 13日 全連小常任理事会（東京・KKRホテル東京）紺野会長出席
 全連小第242回理事会（東京・KKRホテル東京）紺野会長、佐藤部長出席
 14日 第74回全国連合小学校長会研究協議会島根大会（東京会場）参加者 8名
 21日 東北連小第 1 回対策委員会（ホテルメトロポリタン盛岡）
 東北連小第 2 回教育課程委員会（ホテルメトロポリタン盛岡）
 24日 現職・退職両校長会教育懇談会（サンセール盛岡）常任理事出席
- 11月 2日 第 8 回常任理事会（校長会事務局）
 14日 第 4 回理事会・第 2 回評議員会合同会議（盛岡市勤労福祉会館）
 第 2 回東日本大震災対策特別委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 東北連小岩手大会第 4 回実行委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 15日 岩手県教育委員会へ要望書提出
 18日 全連小常任理事会（東京・KKRホテル東京）紺野会長出席
 21日 第 4 回行財政対策委員会（盛岡市勤労福祉会館）
- 12月 2日 第 3 回広報・編集委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 8日 第 5 回行財政対策委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 9日 第 8 回調査研究委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 全連小常任理事会（東京・KKRホテル東京）紺野会長出席
 15日 第 4 回広報・編集委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 16日 第 9 回常任理事会（校長会事務局）
- 1月 17日 全連小75周年記念誌拡大編集委員会（東京・KKRホテル東京）中村部長出席
 20日 全連小常任理事会（東京・KKRホテル東京）紺野会長出席
 23日 第 2 回広報・編集部担当理事・地区担当者・専門委員合同会議（盛岡市勤労福祉会館）
 27日 第 2 回総務部担当理事・地区事務局長合同会議（盛岡市勤労福祉会館）
 30日 第 2 回研修部担当理事・地区研修担当者 第 2 回調査研究特別委員会・第 9 回調査研究委員会合同会議
 （盛岡市勤労福祉会館）
 31日 第10回常任理事会（校長会事務局）
- 2月 3日 東北連小第 3 回理事会・研修会（ホテルメトロポリタン盛岡本館）
 10日 第 2 回行財政部担当理事・地区行財政担当者・対策委員合同会議（盛岡市勤労福祉会館）
 第10回調査研究委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 第 5 回広報・編集委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 第 5 回生徒指導委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 16日 全連小常任理事会（東京・KKRホテル東京）紺野会長出席
- 16～17日 全連小第243回理事会（東京・KKRホテル東京）紺野会長、佐藤部長出席
 22日 第 5 回理事会・第 3 回評議員会合同会議（サンセール盛岡）
 第 3 回東日本大震災対策特別委員会（サンセール盛岡）
- 3月 1日 岩手県小学校長会会計監査（盛岡市勤労福祉会館）
 6日 全連小常任理事会（東京・KKRホテル東京）紺野会長出席
 7日 東北連合小学校長会会計監査（盛岡市勤労福祉会館）
 10日 第11回常任理事会（校長会事務局）
 22日 第12回常任理事会（校長会事務局）

編集後記

校長会会報も最終号となりました。各号の発行に際しまして、多くの皆様にご執筆をいただき、事業の成果や地区校長会の取組を共有するとともに、今年度の歩みを残すことができましたことに心より感謝申し上げます。

今年度は、会員の皆様のご支援・ご協力により、参集による東北連小岩手大会、岩手県小・中学校長研究大会釜石大会を成功裏に終えることができました。また、全連小島根大会において、盛岡市立松園小学校後藤良子校長、矢巾町立煙山小学校阿部真由子校長が地区校長会を代表し、研究の成果を発表しました。さらに、各専門部及び各地区校長会では、計画通り事業を推進し、着実に成果をあげる事ができました。今年度も実り多い一年となりました。

長く続くコロナ禍ではありませんが、「校長の学びを止めない」「子どもの学びを止めない」という考えのもと、ねらいを再確認し、工夫や改善を図りながら、研修や教育活動を推進することができたことは大きな喜びです。

来年度も県小学校長会一丸となって、子どもたちのために尽力してまいりたいと存じます。

（担当 中村 幸子）